



R.Kaji



R.Kaji



Y.Nakanishi



R.Kaji

北原職員は馬事公苑とともに人生を歩んできた  
(騎乗馬:オースミイレブン)

東京2020オリンピック代表が語る

JRA馬事公苑リニューアルオープン記念スペシャル対談

# 馬事公苑と馬術競技の未来

東京2020オリンピックに馬術日本代表として出場したJRA職員の3選手。自身も馬術選手として活躍したフリーアナウンサーの松田和佳さんとともに、JRA馬事公苑が果たすべき役割や、競馬と馬術の深いつながり、今後の目標を語ってもらった。

構成=軍士門隼夫 ※この対談は2023年11月8日に収録を行いました。



日本馬術連盟 / 中西祐介

東京2020オリンピック馬術  
日本代表 馬場馬術  
**北原広之**

きたはら ひろゆき

1971年生、東京都出身。明治大学卒業後、95年JRA入会。2002年金山アジア大会で団体銀メダル。全日本馬場馬術選手権では04年から3連覇を達成。東京オリンピックでは愛馬ウラカ号とともに五輪初出場を果たし、個人45位、団体14位、49歳(出場当時)は日本代表選手団における最年長。



日本馬術連盟 / 中西祐介

東京2020オリンピック馬術  
日本代表 総合馬術  
**戸本一真**

ともと かずま

1983年生、岐阜県出身。明治大学卒業後、2006年JRA入会。16年からイギリスに拠点を移し、ヴィンシー号で東京オリンピック出場。総合馬術団体11位、個人ではメダル圏内に僅差の4位入賞を果たす。日本選手の馬術での個人種目入賞は1932年ロサンゼルス大会金メダルの西竹一選手(ウラヌス号)以来89年ぶりの快挙。



日本馬術連盟 / 中西祐介

東京2020オリンピック馬術  
日本代表 馬場馬術  
**佐渡一毅**

さと かずき

1985年生、京都府出身。京都産業大学卒業後、2007年JRA入会。14年仁川アジア大会で個人5位、団体銀メダル獲得後、オランダに拠点を移し、18年ジャカルタアジア大会の団体金メダルなど活躍。ルードウィッヒ号とともに東京オリンピック出場を果たし、個人56位、団体14位。



聞き手  
フリーアナウンサー  
**松田和佳**

まつだ わか

1996年生、東京都出身。中学時代からモデルとして活躍。慶應中等部、慶應女子高校、慶應大学と10年間馬術部に所属し競技会に出場。2016年きものクイーンコンテストグランプリ受賞。20年静岡朝日テレビに社社アナウンサーとして活動。現在は吉本興業に所属し、フリーアナウンサーとして活躍中。

## あらためて振り返る 母国開催の五輪

**松田和佳(以下、松田)** 今回は「馬事公苑と馬術競技の未来」というテーマで、東京2020オリンピックに馬術競技日本代表として出場された皆さまにお話を伺います。私自身、小学校1年生で初めて馬に乗ってから中学、高校、大学と馬術をしていたので、いちファンとして、お話を伺えることを光栄に思います。では、まずは皆さまの馬術歴を中心に、自己紹介をお願いします。

**佐渡一毅(以下、佐渡)** 私は5歳で初めて馬に乗り、その後、滋賀県大津市の乗馬クラブで乗馬を始めました。京都産業大学からJRAに入会後は馬事公苑に配属となり、そこから徐々に馬場馬術をメインに競技活動をするようになりました。2014年からはオランダを拠点に活動させていただいており、東京オリンピックの後も引き続きオランダを拠点にしています。

**戸本一真(以下、戸本)** 私は小学校2年生の時初めて馬に乗りました。場所は岐阜県の笠松競馬場です。明治大学の馬術部からJRAに入会後は、業務の関係で数年間、競技には出ていませんでしたが、2011年に馬事公苑に配属になり、競技を再開しました。実は障害馬術が専門だったのですが、オリンピックの東京開催が決まった際、北原さんから総合馬術で東京を目指さないかと言われて、最初は断ったのですが、熟

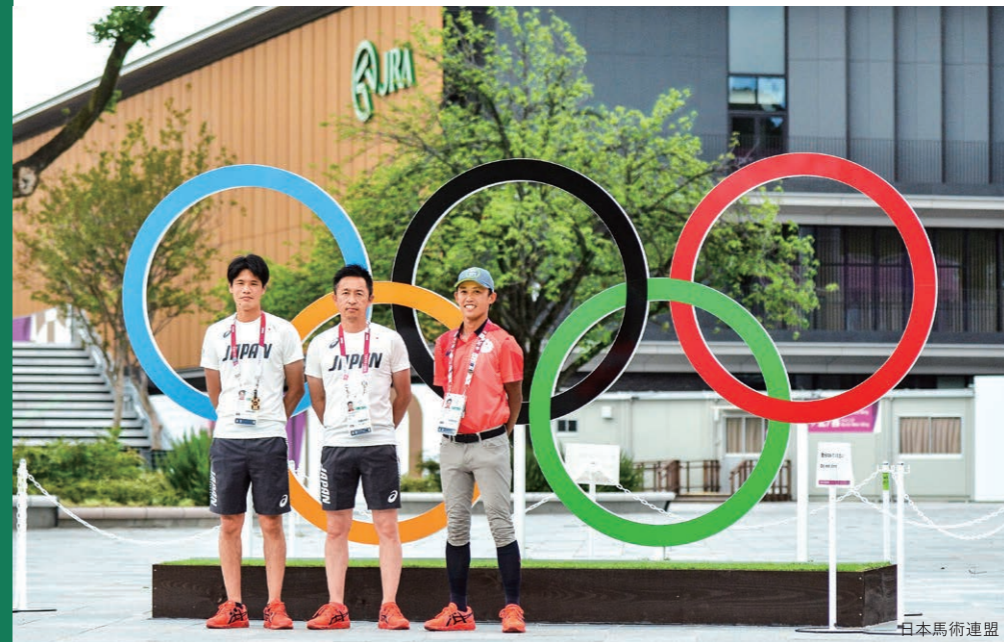
考の末、やっぱりやらせてくださいとお話して、2016年の終わりにから総合馬術の修行のためイギリスに拠点を移し、現在に至っています。

**北原広之(以下、北原)** 私はこの馬事公苑の近くで生まれまして、初めて馬に乗ったのも馬事公苑です。1995年にJRAに入会して最初の赴任先も馬事公苑でしたし、今もそうなので、東京オリンピック前後の移転期間の宇都宮と3度の海外での活動期間以外は、ずっと世田谷ということになります。ですから馬事公苑に関しては本当にいろいろな思い出があります。レイアウトは様変わりしましたが、木一本を見ても、あのときそこにあった木だとわかるくらいです。

**松田** 海外で修行されていたのはどちらの国ですか？  
**北原** 3度ともドイツで2000年、08年、そして東京オリンピック前の18年からです。最後は当初2年の予定がコロナ禍で開催が延びて3年半になりましたが、1年延びたおかげで経験値や技術を向上させる時間ができたことをプラスに考えて準備をしました。

**松田** 佐渡さんと戸本さんは、開催の1年延期をどう感じていましたか？  
**佐渡** 最初はまた1年、待つのかという気持ちでした。でもその1年で馬との関係が深まりましたし、結果的に競技成績を上げることもつながりました。  
**戸本** 私は東京を目指して2019年からコンピを組んだ馬がその年の終わりに大きな

たくさんの応援を受けて母国開催の有難みを強く感じたと言語る3人(左から佐渡職員、北原職員、戸本職員)



日本馬術連盟

怪我をして、20年に予定通り開催されていたら間に合うかどうかという状態でした。なので、延期で馬の休養期間ができたことは私にとってはラッキーでした。

**松田** 東京オリンピックは大会自体もコロナ禍で無観客開催となってしまいました。  
**北原** 馬術競技はグリーンチャンネルがノースクランブルで放送してくれ、全国の馬術関係者をはじめ、多くの方々に見ていただくことができました。そこはありがたかったですね。

**佐渡** 世界のトップが集まる大会を生でももらえなかったのは正直、残念でした。ただ、あんな状況下でも開催してもらえたことへの感謝の気持ちは、オリンピックへ向けて活動してきたすべての競技の選手が持ったと思います。

**戸本** 私も総合馬術の面白さを伝えるチャンスだと思っていたので、無観客は残念でした。ただ、当初は無観客では母国開催の実感も得られないと思っていましたが、そこは違いました。馬事公苑ではボランティアの方々に、応援しているよという声をたくさんかけていただいて。改めて普段の国際大会とは違う、オリンピックなんだと感ることができました。

**北原** 我々は直前まで海外にいて、ネットのニュースなどから、日本のオリンピック開催に否定的な空気もあって、歓迎されていないのかなと感じていました。ですから日本へ来て、開会式のためバスで選手村を出たとき、たくさんの人が沿道で旗を振っているのを見て本当に涙が出ました。やっていいんだ、プレーしていいんだと。



Y.Nakanishi



Y.Nakanishi

世界に誇れる素晴らしい施設。東京2020オリンピックの舞台となった馬事公苑で演技を行う北原職員(左)と佐渡職員(右)

## JRAと馬術競技の 深いつながり

**松田** 東京オリンピックの馬術競技はJRAのサポートが大きかったと聞きます。実際、どう感じられましたか？

**佐渡** 非常に大きかったです。運営はもちろん、獣医師、馬場管理、馬の体を冷やす氷の用意から障害の設置まで、あらゆる場面でJRAの力が発揮されました。海外の選手やスタッフからも、素晴らしい施設と大会だったと称賛の声をもらって、すごく誇らしい気持ちになりました。

**北原** そもそも会場の馬事公苑がJRAの

施設ですからね。JRAでは施設面以外でも馬術に関しては様々な支援を行っており、馬術というスポーツが日本で成り立っているのはそういった側面もあります。だからこそ、今後はそうした下支えがなくてもやっていけるスポーツになっていくことが理想だと思っています。

**松田** 競馬と馬術の関係で言えば、日本では引退競走馬が乗馬に転身するケースが多く見られるようですね。

**北原** 実際に引退競走馬の競技会も行われていますし、馬のセカンドキャリアを見せることで競馬ファンからの応援も得られていることは感じています。それに、やっぱ

り日本の馬術の選手はみんなサラブレッドから入っていることが多いので、この日本独特ともいえる深い繋がり、この先も続いていくことでしょう。

**松田** これまでに乗った引退競走馬で思い出に残る馬はいますか？

**佐渡** 私はスイングユタカという内国産馬(父サクラユタカオー)です。北原さんが調教を手がけた馬で、その馬で初めて全日本の内国産選手権を勝てましたし、馬場馬術の楽しさを知り、深く関わっていきこうと考えたきっかけとなった恩馬です。

**戸本** 私は大学に入るまで、乗っていたのはほとんど引退競走馬でした。その高校生



日本馬術連盟

スイングユタカと佐渡職員は全日本内国産馬場馬術選手権を2008年、10年と2度にわたり制覇。写真は10年優勝時

までの時期にサラブレッドから学んだ感覚や技術が私のベースになっているのは間違いなくて、今もやっぱりサラブレッドに近いタイプの馬は好きですし、乗っていて楽しいですね。

**松田** 競走馬を乗馬用に再調教する際に大事なことは何ですか？

**北原** 現在、JRAも「リトレーニング」という呼び名で馬術用馬への再調教を行っています。馬には身体面、精神面でさまざまな適性があります。競馬では勝てなくても馬術では勝てる馬もいます。気性の荒かった馬がおとなしくなって、競技用馬にはなれなくても、初心者に乗せる馬として生きていくこともあります。大事なことはそうした適性を見極めて導くことです。

**松田** そういう競馬と乗馬の関係は、日本ならではのものですね。

**北原** ただし、リトレーニングの依頼はそれほど多くはありません。ただ私たちがそうだったように、これから馬術を始める若者も最初はサラブレッドからいろんな感覚を学ばせてもらうはずで、もっと手掛けたいという思いは強いです。個人的にも、サラブレッドでオリンピック、国際競技会に出ることは、夢のそのまた夢ですが、目標としては持ち続けようと思います。

## 新しい馬事公苑が 果たす役割

**松田** 馬事公苑は2023年11月に、約7年ぶりにリニューアルオープンを迎えました。今後は馬術競技会が頻繁に行われることになりますね。

**北原** はい。以前と同様、少年団や学生馬術を中心に、一般愛好家の皆さんが参加できる競技会、内国産馬限定のジャパンブリーディングホースショーのようなJRAの主催競技など、オフシーズンの真夏と真冬以外は、ほぼ毎週競技会が組まれます。

**松田** 日本と海外の競技会の違いは？  
**佐渡** 海外はやはり観客数が多いですね。元来馬術に携わる人数が違いますから。だからこそ興行として成り立つのだと感じます。

**戸本** 見る側も馬の知識を持っていること

が大きな違いですね。お客さんも拍手して声を出して、自分も参加して楽しんでいますし、主催者側もショー的な要素を多く取り入れ盛り上げています。

**松田** そんな競技会を、ぜひ馬事公苑でも見てみたいですね。最後に、新たな馬事公苑が今後果たすべき役割について、皆さまのお考えをお聞かせください。

**佐渡** 馬事公苑が多くの人と人が触れ合える場所であるとともに、国際競技会を行うことができる施設という点での役割があると思っています。オリンピックが無観客だったことは残念でしたが、今後国際競技会などで世界のトップライダーを生で見られるような舞台を、特に若いライダーの皆さんにご覧いただくことで、世界を目指すきっかけになってほしいです。

**戸本** 日本には非常に多くの競馬ファンがおられ、馬が行うスポーツには興味を持っていただいているので、競馬ファンの皆さんに馬術にも興味をもってもらえるために、競馬場と同じJRAの施設である馬事公苑の役割は重要だと思います。

もう一つは、地方で馬術をしている方が、いつか馬事公苑の競技会に出場してみたいと思えるような場所であり続けなければならないと思っています。私自身が、小さい頃から馬事公苑は乗馬雑誌で見る憧れの会場だったので、初めて来たときの感動は今も忘れません。

**松田** 私も学生馬術を卒業してからは馬に乗っていないのですが、新しい馬事公苑

を見て、いつかまたここで試合に出たいという気持ちが湧いてきました。



R.Kaji

中学から大学まで馬術を続けてきた松田さん

**北原** 松田さんのような方が馬事公苑で馬に乗ってどんどん情報発信をしていただければ、馬術競技をメジャーにしていくため、これ以上心強い応援はありません(笑)。

**松田** ぜひ乗れるように頑張ります。

**北原** 新たな馬事公苑では、馬に乗ることだけではなく、馬を扱い、世話をするという楽しみも発信していこうと考えています。私が東京オリンピックの日本選手団の中で最年長だったように、馬術は「生涯スポーツ」と呼ぶことのできる競技です。さまざまな人々がこの馬事公苑で馬に長く関われるようなプログラムをつくって、馬の魅力を発信していきたいですね。

**松田** どうもありがとうございました。私も今後の皆さまのご活躍を応援してまいります。



Y.Nakanishi

写真左:2019年ジャパンカップで誘導馬に騎乗した戸本職員(最左)。競馬ファンにも馬術に興味を持ってもらうことが重要なカギとなる写真右:戸本職員は東京2020オリンピック総合馬術個人で4位入賞を果たした